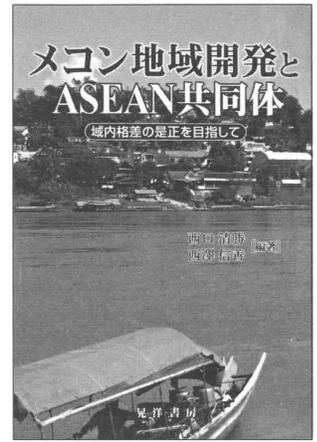


西口清勝・西澤信善 編著

『メコン地域開発とASEAN共同体
— 地域格差の是正を目指して —』

見洋書房 2014年 4,800円

秋山 憲治



ASEANは、アジアの経済成長センターとして注目されており、特に、メコン地域開発は、重要課題となっている。本書は、西口清勝氏を研究代表者とした「ASEAN-Divideの克服とメコン川地域開発(GMS)に関する国際共同研究」の研究成果であり、メコン地域開発の現状と問題点を域内格差の是正という視点より総合的に研究している。

本書は、400ページに及ぶ大作であり、4部構成で18本の研究論文と6つのコラムで編成されている。第Ⅰ部で総論としてメコン地域開発の現状を分析し、第Ⅱ部で各論として、後発メコン地域であるカンボジア、ラオス、ミャンマー、ヴェトナムの諸問題を検討している。そして、第Ⅲ部では、ASEAN先発国のタイや後発メコン地域に影響を与える中国やメコン川上流の雲南省を取り上げる。最後に、第Ⅳ部でメコン地域開発と日本や中国、ASEAN全体などとの国際関係を検討している。総論、各論、国際関係とメコン川地域開発をめぐる各方面より分析している。

取り上げている課題は多岐にわたり、ASEAN経済共同体、経済回廊、政府開発援助、経済成長の資本源泉、ランドロック国の制約、貧困・格差問題、経済制裁、移住中国人、GMS開発計画、環境保全、知的財産権制度、中国の役割、中国雲南省、日本のアプローチ、国際河川問題など、様々な分析視点より研究している。

各章は、初めに章の目的や要約が述べられており内容を把握しやすい。そのため、第1章から順を追って読み進める必要はなく、興味ある章から読むことも可能である。また、欧文、邦文、中国語と多くの参考文献や索引も充実しており、当該地域の研究者に有益な情報提供している。また、日本人のASEAN研究者のみならず、後発4か国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ヴェトナム）とタイ、中国など現地事情に熟知している当該国の研究者も執筆している。さらに、開催された国際セミナーの報告論文へのコメントとして、ASEAN後発4か国とタイ、中国に関する6つのコラムを設けて、理解しやすいように配慮されている。

今後、ASEAN経済共同体の域内生産ネットワークの進展が見込まれる。そして日系企業の直接投資や経済活動、さらに、TPPやRCEPなどの進展がASEANの経済開発にどのような影響を及ぼすのか興味がある。また、メコン地域開発で道路、鉄道、電力などのインフラ整備が重要であり、メコン域内でのモノや人の移動を活発にし、生産ネットワークの形成、経済成長、経済統合を促進する。しかし、現在、ASEAN経済開発で中国の影響が強まっている。アジアインフラ投資銀行(AIIB)の設立など重要な影響を及ぼそうとしている。中国は今後アジアの国際政治経済のパワーバランスにも大きな影響を及ぼすと思われる。著者たちの今後の研究の進展を期待している。

最後に、本書は、現地調査や現地でのセミナーの開催、意見交換、また、国際セミナーを開催し、内容の濃い著作となっており、東アジアやASEANに興味を持っている研究者やビジネス関係者などに推薦したい。いくつかの章は、英語で書かれた日本語翻訳論文も含まれているため、ASEANが世界の成長センターとして世界的に注目されている現状を考えると、英文での出版も考えたら如何と感じた。

◇ 西口清勝・立命館大学経済学部教授

(あきやま けんじ 神奈川大学経済学部教授)

◇ 西澤信善・神戸大学名誉教授